豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成22年度(2010年度)

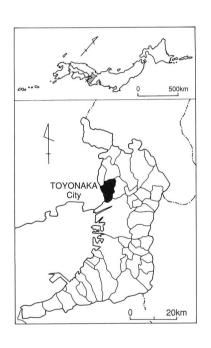
平成23年(2011年)3月

豊中市教育委員会



豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 22 年度 (2010 年度)



平成23年(2011年)3月

豊中市教育委員会

序 文

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。千里丘陵にかつて広大な森林を控えたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれてきた結果、多くの歴史的遺産が受け継がれてきました。その一方、商都大阪に隣接する関係により、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いは落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財の保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性をふまえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。平成22年度に調査を実施した桜塚古墳群、および各遺跡における確認調査に加え、平成21年度後期に実施した調査成果も掲載しました。桜塚古墳群では新たな古墳が発見され、新免遺跡では古墳時代の集落跡が確認されるなど、新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成23年(2011年)3月31日

豊中市教育委員会 教育長 山元行博

例 言

- 1. 本書は、平成 22 年度国庫補助事業 (総額 7,000,000 円、国庫 50%、市費 50%)として 計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また平成 21 年度国庫補 助事業として実施した新免遺跡第 63 次調査と確認調査の成果も併せて収録した。
- 2. 平成 22 年度事業として、平成 22 年 4 月 5 日から平成 23 年 3 月 31 日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。
- 3. 発掘調査は、本市教育委員会地域教育振興課文化財保護係が実施した。
- 4. 本書のうち、第 I ~Ⅲ章は陣内が執筆した。また、第IV章は各調査担当者の見解をもとに、 浅田が執筆した。なお、全体の編集を陣内が行なった。
- 5. 各挿図に掲載した方位表記のうち、M. N. は磁北、また表記のないものは国土座標系(第 VI系)に基づく座標北を示す。
- 6. 挿図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準土色帖 2010 年版』に基づく。
- 7. 挿図に掲載した出土遺物の縮尺は1:3、または1:2とする。
- 8. 各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただきました。併せてここに明記し、深謝いたします。

本書掲載発掘調査一覧

遺跡名	次数	調査地	調査面積	担当者	調査期間
新免遺跡	第 63 次	豊中市玉井町2丁目213-3	66 m ²	清水 篤	平成 21 年 11 月 30 日 ~ 12 月 25 日(21 年度事業)
桜塚古墳群	第11次	豊中市南桜塚1丁目 222 - 4 の一部	22 m ²	陣内 高志	平成 22 年 11 月 26 日 ~ 12 月 3 日

目 次

第 I 章 位置と環境	(陣内)
1. 地理的環境	
2. 歴史的環境	1
第Ⅱ章 新免遺跡第 63 次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	5
2. 調査の概要	6
(1)遺跡の概要と既往の調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
(2) 基本層序	6
(3) 検出した遺構と遺物	6
3. まとめ	9
第Ⅲ章 桜塚古墳群第 11 次調査	(陣内)
1. 調査の経緯	11
2. 調査の概要	
(1) 基本層序	12
(2) 検出した遺構	13
(3) 出土遺物	13
3. まとめ	14
第IV章 確認調査の成果	(浅田)

挿図・表目次

(第Ⅰ章	位置と環境)	
第1図	市内遺跡分布図	2
第2図	調査地点と周辺の地形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
(第Ⅱ章	新免遺跡第 63 次調査)	
第3図	調査範囲図(1:150)	5
第4図	調査地位置図(1:5,000)	5
第5図	調査区平面・断面図 (1:60)	
第6図	竪穴住居 1 平面・断面図 (1:40)	
第7図	竪穴住居 2 平面・断面図(1:40)	
第8図	遺構出土遺物 (1:3)	
第9図	その他出土遺物(1:3)	9
(第Ⅲ章	桜塚古墳群第 11 次調査)	
第 10 図	調査範囲図(1:200)]	1 1
第 11 図		
第 12 図	調査区平面・断面図(1:40)]	12
第 13 図		
第 14 図		13
第 15 図	周溝想定図(1:200)	14
(第IV章	確認調査の成果)	
第1表	平成 22 年 (2010 年) 確認調査一覧表 1	15
第 16 図	確認調査地点位置図	16
第 17 図	トレンチ掘削状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
第 18 図	トレンチ平面・断面図 1	17
第 19 図	トレンチ掘削状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	17
第 20 図	トレンチ断面図	17
第 21 図	トレンチ掘削状況	18
第 22 図	トレンチ断面図 1	1 8

第 23 図	トレンチ掘削状況		18
第 24 図	トレンチ断面図		18
第 25 図	トレンチ掘削状況		19
第 26 図	トレンチ断面図		19
第 27 図	トレンチ掘削状況		19
第 28 図	トレンチ断面図		19
第 29 図	トレンチ掘削状況		20
第 30 図	トレンチ断面図		20
第 31 図	トレンチ掘削状況		20
第 32 図	トレンチ断面図		20
第 33 図	トレンチ掘削状況		21
第 34 図	トレンチ平面・断面	面図	21
第 35 図	トレンチ掘削状況		21
第 36 図	トレンチ断面図		21
第 37 図	トレンチ掘削状況		22
第 38 図	トレンチ断面図		22
第 39 図	トレンチ掘削状況		22
第 40 図	トレンチ断面図		22
第 41 図	トレンチ掘削状況		23
第 42 図	トレンチ断面図		23
第 43 図	トレンチ掘削状況		23
第 44 図	トレンチ断面図		23
第 45 図	トレンチ掘削状況		24
第 46 図	トレンチ断面図		24
第 47 図	トレンチ掘削状況		24
第 48 図	トレンチ断面図		24
第 49 図	トレンチ掘削状況		25
第 50 図	トレンチ断面図		25
第 51 図	トレンチ掘削状況		25
第 52 図	トレンチ断面図		25
第 53 図	トレンチ掘削状況		26
第 54 図	トレンチ断面図		26
第 55 図	トレンチ掘削状況		26
第 56 図	トレンチ断面図		26
第 57 図	トレンチ掘削状況		27
第 58 図	トレンチ断面図		27
第 59 図	トレンチ掘削状況		27

第 60 図	トレンチ断面図	•••••	27
第61図	トレンチ掘削状況		28
第 62 図	トレンチ平面・断面	面図	28
第 63 図	トレンチ掘削状況		28
第 64 図	トレンチ平面・断面	面図	28
第 65 図	トレンチ掘削状況		29
第 66 図	トレンチ断面図		29
第 67 図	トレンチ掘削状況	•••••	29
第 68 図	トレンチ断面図		29
第 69 図	トレンチ掘削状況		30
第 70 図	トレンチ断面図		30
第71図	トレンチ掘削状況		30
第72図	トレンチ断面図	······································	30
第73図	トレンチ掘削状況		31
第74図	トレンチ断面図		31
第 75 図	トレンチ掘削状況		31
第 76 図	トレンチ断面図	•••••	31
第77図	トレンチ掘削状況		32
第 78 図	トレンチ断面図		32
第 79 図	トレンチ掘削状況		32
第 80 図	トレンチ断面図	•••••	32
第81図	トレンチ掘削状況		33
第 82 図	トレンチ断面図		33
第 83 図	トレンチ掘削状況		33
第 84 図	トレンチ断面図	•••••	33
第 85 図	トレンチ掘削状況		34
第 86 図	トレンチ断面図		34
第 87 図	トレンチ掘削状況		34
第88図	トレンチ断面図	•••••	34
第 89 図	トレンチ掘削状況		35
第 90 図	トレンチ断面図		35
第 91 図	トレンチ掘削状況		35
第 92 図	トレンチ断面図		35
第 93 図	トレンチ掘削状況		36
第 94 図	トレンチ断面図	•••••	36
第 95 図	トレンチ掘削状況	•••••	36

第 96 図	トレンチ断面図	•••••	36
第 97 図	トレンチ掘削状況		37
第 98 図	トレンチ断面図		37
第 99 図	トレンチ掘削状況		37
第 100 図	トレンチ平面・断記	面図	37
第 101 図	トレンチ掘削状況		38
第 102 図	トレンチ断面図		38
第 103 図	トレンチ掘削状況		38
第 104 図	トレンチ断面図		38
第 105 図	トレンチ掘削状況		39
第 106 図	トレンチ断面図		39
第 107 図	トレンチ掘削状況		39
第 108 図	トレンチ断面図		39

図版目次

図版 1 新免遺跡第 63 次調査

- (1)調査区西部全景(北から)
- (2)調査区東部全景(北西から)

図版 2 新免遺跡第 63 次調査

- (1)調査区北部全景(北東から)
- (2)竪穴住居1断面(南から)

図版3 新免遺跡第63次調査

- (1)竪穴住居2壁溝検出状況(北東から)
- (2)竪穴住居2全景(北東から)

図版 4 新免遺跡第 63 次調査

- (1)竪穴住居2断面(南西から)
- (2) ピット5 (竪穴住居1床面)

図版 5 新免遺跡第 63 次調査

- (1) ピット12 (竪穴住居2内)
- (2) ピット 11 (竪穴住居 2内)

図版 6 新免遺跡第 63 次調査 出土遺物

- (1) 遺構出土遺物
 - (1:土坑 1、2:竪穴住居 1上層、
 - 3 · 4:竪穴住居1下層)
- (2) その他出土遺物 (重機掘削後精査時)

図版7 桜塚古墳群第11次調査

- (1)調査区全景(北東から)
- (2) 古墳周溝全景(北から)

図版8 桜塚古墳群第11次調査

- (1) 古墳周溝断面(南西から)
- (2)調查区基本層序(東壁面)

図版 9 桜塚古墳群第 11 次調査 出土遺物

- (1) 周溝出土埴輪(左:外面、右:内面)
- (2)採集埴輪(左:外面、右:内面)

第1章 位置と環境

1. 地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治 43 年箕面有馬電気軌道(現在の阪急電鉄宝塚線)開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積 37 k ㎡中に約 39 万人もの人口を擁する北摂最大の住宅都市へと発展している。ここに到った背景としては、大阪市近郊であることに加え、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車専用道路や、阪急電鉄や北大阪急行、大阪モノレールによる電車網、さらには大阪国際空港に示される陸空交通による利便性の高さが挙げられよう。

一方、地形に目を転じると、豊中市は巨視的にみて北から南に向かって標高が徐々に低くなる穏やかな地形を呈しており、市内最高地点である島熊山(海抜約 100 m)から最も低い大島町付近(海抜 1 m以下)にかけての比高差はおよそ 100 mである。ここで地形的特徴を細かく区分していくと、おおよそ北部・中部・南部という三区分が可能であろう。北部一帯は千里丘陵と刀根山丘陵と呼ばれる 2 つの丘陵地からなる。千里丘陵は大阪層群でその名が知られている通りである。続いて中部一帯は主に千里丘陵から派生する中・低位段丘を中心とした通称豊中台地、最後に南部一帯は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部という見方ができる。

次章以下で報告する新免遺跡・桜塚古墳群はいずれも通称豊中台地と呼ばれる段丘上に立地する遺跡である。

2. 歷史的環境

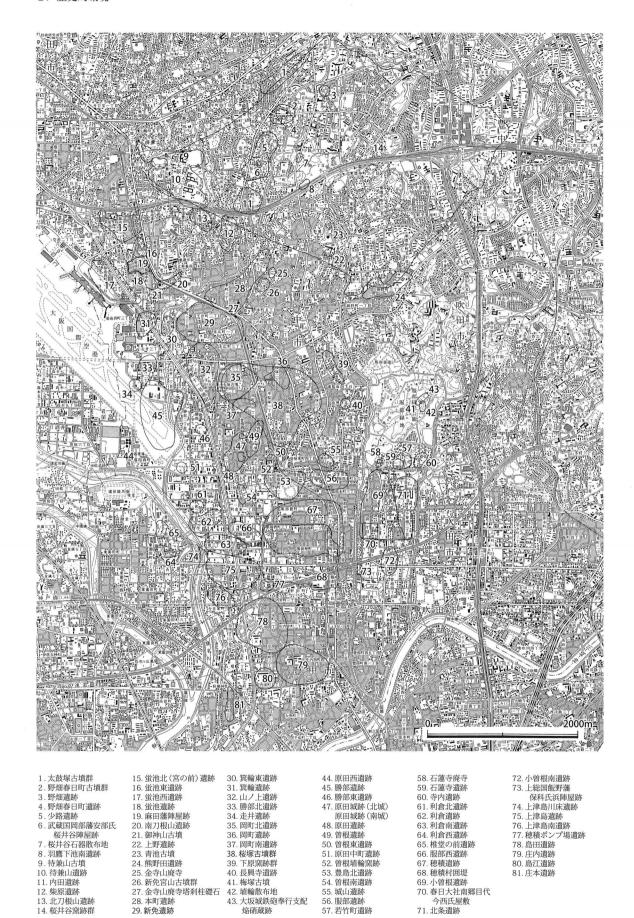
ここでは今回報告する遺跡の動向を中心に述べていく。

新免遺跡 弥生~古墳時代の集落遺跡として知られる新免遺跡は、その範囲は東西 900m、南北 550m に及び、市内有数の広さを誇っている。この新免遺跡が誕生するのは弥生時代中期であり、勝部遺跡からの分村とみられている。一般に市域の弥生集落は弥生中期に低地から台地上に進出する傾向がうかがえ、新免遺跡は千里川流域の好例として知られる。

遺跡は弥生時代中期段階に盛期を迎え、多数の竪穴住居からなる居住域と方形周溝墓によって構成される墓域を有する拠点集落として知られる。弥生時代後期~同終末期、集落の勢いは中期段階に比べてやや劣るものの依然市内では中心的な弥生集落であったとみられるが、古墳時代前期~中期中葉は一旦衰退したためか様相が不明瞭になる。その後、古墳時代中期後葉に再び盛期を迎えるが、その背景として桜井谷窯跡群の創業開始が挙げられる。

桜井谷窯跡群は古墳時代から奈良時代にわたって営まれた千里古窯址群の一角を構成し、最盛期である後期前半には陶邑窯跡群に匹敵するほどの生産量を誇ったともいわれている。当該時期の新免遺跡では、集落内から焼けひずんだり焼成不十分な須恵器が多数出土し、さらに土坑や溝状遺構のなかには大量の須恵器が集積された状態で確認されている。このことから古墳時代後半

2. 歷史的環境



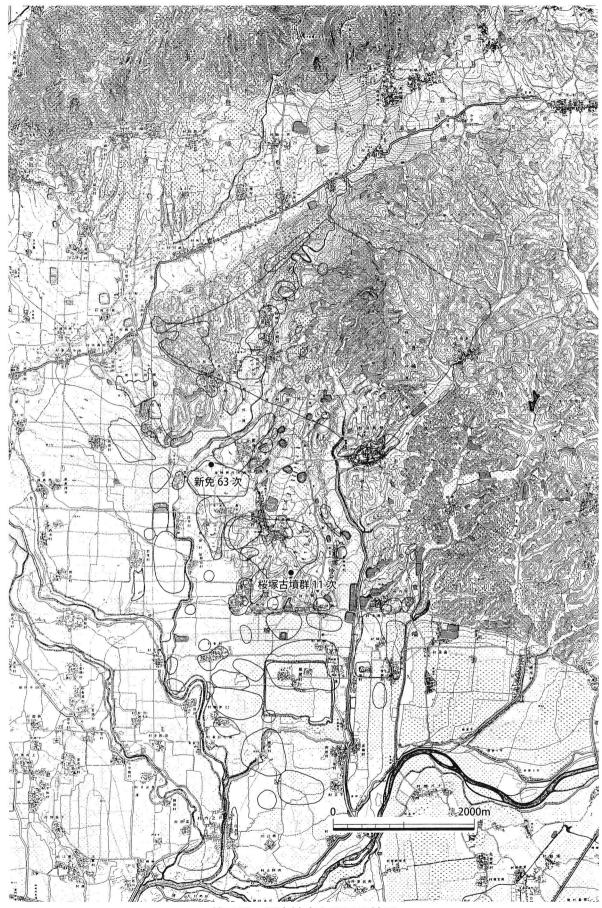
第1図 市内遺跡分布図

期の新免遺跡は、同様の傾向がうかがえる本町遺跡とともに須恵器生産に関連する集落とみられ、主に桜井谷窯跡群で生産された須恵器の選別作業を担った集落と考えられている。

桜塚古墳群 古墳時代前期後半、豊中台地に突如出現する大石塚古墳、それに続く小石塚古墳は桜塚古墳群築造の開始を告げるものであった。同古墳群は明治に描かれた絵図(「壱目三拾六墳全図」など)や発掘調査成果により少なくとも 40~50基の古墳から成っていたとみられるが、中近世以降の耕地化ならびに宅地開発によって多くの古墳が消滅してしまい、現在は北部一帯に大石塚古墳、小石塚古墳、大塚古墳、御獅子塚古墳、南天平塚古墳の5基が現存するのみである。

上記の絵図や近年の調査によると、同古墳群は大まかに4群(西群・中央群・東群・南群)で構成され、古墳時代前期後半から古墳時代中期末あるいは後期初頭にまで及ぶことが判明している。なかでも中期は猪名川左岸を代表する古墳群として周知されている。特に大塚古墳、御獅子塚古墳の各主体部出土の甲冑類は、その質的な特徴から当時の畿内政権中枢との密接な関連性がうかがえる。本書第Ⅲ章で報告する新発見の小規模古墳は、4群中最も動態が不明瞭であった南群に該当する。今回の古墳は、近年南群で発見された古墳と同様古墳時代後期前後の築造のものとみられ、桜塚古墳群の終焉を把握していくうえで基礎的な成果を提供してくれるものと期待される。

中期に隆盛を誇った桜塚古墳群も後期を迎えると衰退しやがて築造を停止する。古墳時代後期 以降、千里川流域では4つの後期古墳群が新たに形成されるが、桜塚古墳群の衰退時期に登場す る新免古墳群は、桜塚古墳群に後続する古墳群として注目されよう。新免古墳群は古墳時代の新 免集落の南方に形成され、全長約25mの前方後円墳を代表とする総数10基に満たない小規模 な古墳群である。同古墳群の被葬者は、桜井谷窯跡群における須恵器の生産活動を背景として誕 生した豪族とみられている。



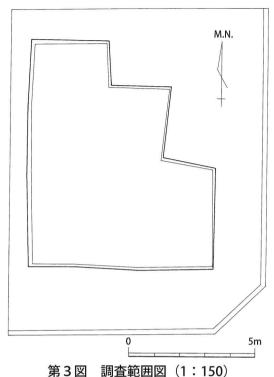
第2図 調査地点と周辺の地形

第Ⅱ章 新免遺跡第63次調査

1. 調査の経緯

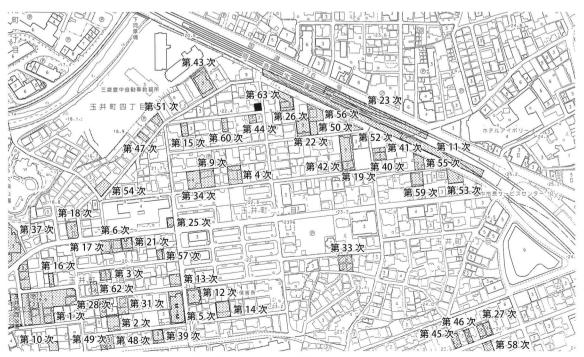
当調査区は、豊中市玉井町2丁目213-3 に所在する。平成21年10月14日に提出され た埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成21 年10月22日に確認調査を行ったところ、地 表下約35cmで古墳時代の遺構面を確認した。 申請地では個人住宅の新築が予定されていた が、基礎工事が地表下 40 cmにまで達し、遺構 面の損壊が免れないことが判明した。計画によ れば基礎構造に変更の余地はなく、事業主なら びに代理者と協議を重ねた結果、本調査を実施 する運びとなった。

本発掘調査は平成 21 年 11 月 30 日 (月) か ら平成 21 年 12 月 25 日 (金) の日程で実施し、 調査対象面積は基礎工事により遺構面が損壊を



第3図 調査範囲図(1:150)

受ける66㎡とした。なお、廃土スペースの問題上、場内反転を実施する必要性が生じたため、調 査区を南北二分割したうえで調査を実施した。



第4図 調査地位置図(1:5,000)

2. 調査の概要

(1)遺跡の概要と既往の調査

新免遺跡は阪急宝塚線豊中駅の西~南西一帯の住宅地に広がる集落遺跡であり、東西約 600 m、南北約 300 mの規模を有する。これまでに 62 件の発掘調査が実施され、縄文時代から現代に至るまでの複合遺跡であることが判明している。遺跡の盛期は弥生時代中期~後期、古墳時代後期とみられ、なかでも弥生集落は多数の竪穴住居と方形周溝墓を検出しており市内有数の拠点集落として位置付けられている。しかしながら個人住宅新築工事を契機とする小面積の調査が多いことから、これらの点的成果を面的な成果へ結び付けることが困難であり、調査次数にも関わらず今なお遺跡の動態は不明瞭である。

今回の調査地は遺跡北端部に位置し、東接する本町遺跡との境界付近である。調査地周辺では 過去の調査で主に弥生時代後期~古墳時代後期の竪穴住居をはじめとする集落関連の遺構が多数 確認されている。

(2) 基本層序

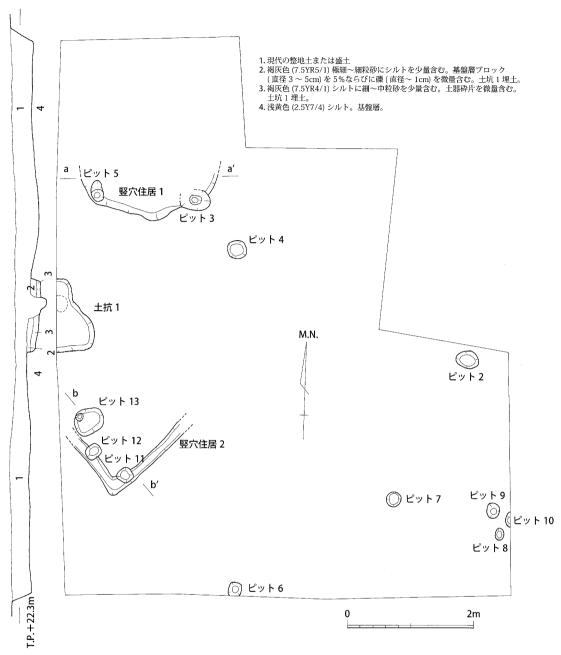
今回の調査区では既設建物の攪乱の影響が調査区のほぼ全域において遺物包含層にまで及んでいたため、盛土直下で基盤層(浅黄色シルト)に達するという状況であった。したがって、基本層序としては第1層が盛土、第2層は基盤層(浅黄色シルト)ということになる。今回の調査は盛土除去後、基盤層上面を精査し、ここを遺構面として実施した。

(3)検出した遺構と遺物

調査区は基本層序がほとんど残存しないという状況だったにもかかわらず、遺構面に至っては 竪穴住居2基をはじめ土坑1基、ピット12基を確認することができた。ここでは基盤層上面に おける主な検出遺構について紹介する。

竪穴住居1 調査区北部で検出したが、攪乱の影響で確認できたのはその南端部分のみである(第6図)。 残存部分の最大幅は 2.2m、検出面からの深度は最大で約40cmをはかり、住居の平面形はピットと重複部分があるものの円形とみられる。台地上に立地する新免遺跡において、今回のように竪穴住居内の埋土が40cm近く堆積する事例は珍しく、近隣では第22次調査のSH-10が同様の事例として挙げられる。

竪穴住居1の埋土は上層・中層・下層の3層に区分可能であった。上層の褐灰色細粒砂~中粒砂は、当該住居廃絶後に堆積したと考えられる。中・下層の直上面は床面と考えられることから、当該住居は少なくとも2時期の居住面が存在したことがうかがえる。中層は新段階の床面に相当する。床面を構成する黒褐色シルトは、層中に細粒砂~中粒砂を多く含みつつ基盤層ブロックもわずかに含まれる。この中層直上面には、10 cmほどの高低差がみとめられ、周囲にむかって徐々

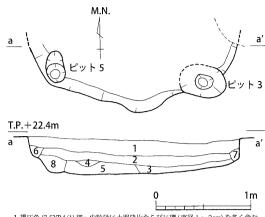


第5図 調査区平面·断面図 (1:60)

に高くなる傾向がうかがえる。その周囲には幅・深度ともに 10 ~ 15 cmの壁溝が巡る。続いて下層は古段階の床面に相当する。基本的に中層と類似した黒褐色シルトで構成されるが、基盤層ブロックが中層と比べ多く含まれる。下層直上面も中層同様に周囲の方が 10 cm程レベルが高く、中層同様に壁溝を有する。下層直下で基底面すなわち基盤層上面に達するが、ここでは壁溝はみとめられなかった。居住面としての可能性は低いと考えられる。

出土遺物のうち、図化し得たのは第8図1・2・5・6である。2は上層出土の須恵器杯身である。 口縁部端部が欠損するものの、形態的な特徴から6世紀前後の可能性が考えられる。5・6は弥生 土器底部片、1は甕形土器口縁部片であり、いずれも下層出土である。5の外面にはタタキ技法が みとめられる。6の底部外面には土器製作時に生じた圧痕がみとめられる。

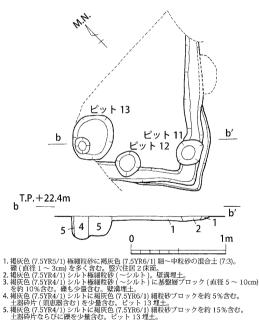
当該住居埋土の形成時期については、上層は須恵器片を含むため古墳時代後期以降の堆積とみ



- 1. 楊灰色 (7.5 YR4/1) 細~中粒砂に土器砕片ならびに礫 (直径 1 ~ 2cm) を多く含む。
 2. 黒褐色 (7.5 YR3/1) シルトに細~中粒砂を少量含む。基盤層ブロック(直径 3 ~ 5cm) を微量、深(直径 5 mu以下)を少量含む。竪穴住居 1 新腹筋の床面 5. 黒褐色 (7.5 YR3/1) シルトに細砂を少量含む。 竖然住居 1 新腹筋の床面 7 (直径 3 ~ 5cm) を微量含む。 型代目 7 5 を設定した 1 5 を対した 1 5 を対した

- 褐灰色 (7.5YR5/1) 細粒砂と黒褐色 (7.5YR3/1) シルトの混合土 (約 7:3)。 基盤層ブロックを約 15%含む。ピット 5 埋土。

第6図 竪穴住居1平面・断面図(1:40)



竪穴住居2平面・断面図(1:40)

られる。続いて居住面を形成していた中層・下層は、 それらの出土遺物が弥生土器で占められることか ら、当該住居の掘削時期ならびに居住期間(古段 階・新段階) は弥生時代後期段階であったと判断 したい。なお、今回出土遺物の制約により、古段階・ 新段階の各時期を明確にすることはできなかった。

ところで、下層の出土遺物中には微細ながら須 恵器砕片が1点含まれていた。よって竪穴住居1 は弥生時代ではないという可能性も出てくるが、 これは今回、弥生時代と古墳時代の遺構埋土の識 別が大変困難であったという事情を考慮すれば、 本来住居埋土部分に存在した古墳時代の遺構を検 出することができなかったために起こり得た事象 と捉えたい。

竪穴住居 2 調査区南西部で検出された方形竪 穴住居である(第7図)。竪穴住居1とは一転して 残存状況が悪く、住居南部コーナー付近のみが残 存していた。残存部分の観察によると、一辺 1.7m 以上の方形住居が考えられ、周囲に壁溝を有する。 住居検出面から基底面までの深度は5cm程度にと どまる。壁溝の幅は 20 ~ 25 cm、深度は約 5 cmを はかる。住居内から3基のピットが検出されたが、 うち2基は壁溝に重複しており同時期でない可能 性もある。

出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器の各砕片 であったが、図化可能だったのは第8図3・7・8 である。3の須恵器杯蓋は同住居内ピット11出土 である。砕片のため直径の復元に疑問を残す。7 はピット13出土の甕形土器または壺形土器底部片 である。内外面の調整は摩滅故に不明だが、復元 底部直径は 7.5 cmに達し、その大きさからして弥

生時代中期の可能性がある。なお、ピット 13 は図化遺物の他に須恵器片も出土しており、古墳時 代後半期に帰属する。8は壺形土器口縁部片である。3条の凹線を施す。弥生時代中期後半に属する。 以上、竪穴住居2はその埋土中に須恵器片を含み、かつ調査区内の出土遺物を考慮すれば大ま かに古墳時代後半期に営まれた住居であったと考えたい。

土坑 1 調査区西部、竪穴住居 1・2 に挟まれた位置で検出された。一部調査区外に伸びている ため、土坑全体の形状は不明である。検出幅は最大で 1.15m、検出面から基底面までは約 20 cm

の深度を有する。竪穴住居の可 能性もあったが、基底面上に柱 穴や壁溝など住居関連の遺構が 確認されず、現段階における土 坑1の評価は不明である。

埋土は上下2層で構成され る。上下層ともに竪穴住居埋土 と類似した褐灰色系の土に基盤 層ブロックが少量含まれる。な お、断面図は第5図を参照され たい。

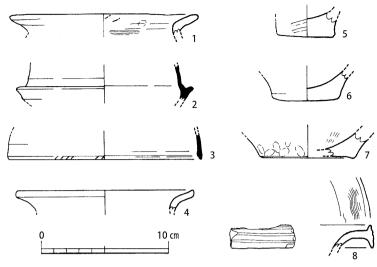
出土遺物は第8図4であり、 甕形土器口縁部と考えられる。表面は摩滅してい

るため調整は観察できないが、形態的な特徴から 弥生時代に帰属するとみられる。

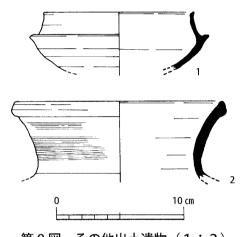
土坑1は埋土中に須恵器を含まないことから弥 生時代後期段階の遺構とみられる。

その他遺構 ピット 2、ピット 6~10 など、調 査区東部域で複数のピットが確認されており、こ れらは建物跡を構成する可能性がある。しかし、 調査面積の制約により建物跡の抽出は困難であっ た。

その他出土遺物 ここでは重機掘削後の遺構面



第8図 遺構出土遺物(1:3)



第9図 その他出土遺物(1:3)

精査時に出土した遺物を紹介する(第9図)。これらは遺構出土でないが、残存状況が今回の出土 遺物のなかでも良好であり、かつ遺跡の時期推定の一助になりうると考え掲載することにした。1 は須恵器杯身である。口縁部の推定直径は 11.6 cm、残存高は 4.5 cmであった。口縁端部には比較 的明瞭な凹線がみとめられる。6世紀初頭前後の所産とみられる。2は須恵器大甕の口縁部分とみ られる。口縁部の推定直径は約16 cm、残存高6 cmをはかり、頸部外面にはカキ目が認められる。 今回は砕片ゆえに図化しえた遺物はごくわずかであったが、それらの遺物の大半は弥生土器・土 師器・須恵器の各砕片であった。

3. まとめ

今回の調査では弥生時代後期~古墳時代後期の集落関連遺構を検出し、当該時期集落の資料が 追加されることになった。調査地周辺において主に弥生時代中期~終末期、古墳時代後期の集落 が確認されており、今回検出の遺構はこれらと一連の集落を形成していたとみられる。また、限 られた調査面積ならびに攪乱の影響を受けつつも前述の遺構数が残存していたということは、調 査地一帯は攪乱によって消滅した遺構を考慮すれば、本来はさらに濃密な遺構分布が想定される。 今回検出の遺構は主に弥生時代後期ならびに古墳時代後期段階の二時期であった。両時期とも に新免遺跡の盛行時期に該当する。ただし、最寄りの本発掘調査地である第44次調査(豊中市 教育委員会1997年)では弥生時代終末期~古墳時代前期の遺構と遺物が確認されていることや、 第11次調査地(阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会1987)におい ても今回の調査地付近では弥生時代中期の竪穴住居が複数基確認されていることなど、調査地に おける遺構は本来は今回検出の二時期にとどまらない可能性が考えられる。今後も調査地周辺に おいて宅地開発等に伴う確認調査ならびに発掘調査の実施が予想され、その調査の折りには既往 の成果を考慮しつつ慎重に行っていく必要がある。

参考・引用文献

- ・阪急宝塚線豊中市内連続立体交差遺跡調査団・豊中市教育委員会 『新免遺跡-第11次発掘調査報告書-』豊中市文化財調査報告第22集 1987年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第 19・21・22 次調査」 『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 1987 年度』 豊中市文化財調査報告第 26 集 1988 年
- ・豊中市教育委員会「新免遺跡第 44 次調査」 『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成 7(1995)年度 - 阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴 う発掘調査-』 豊中市文化財調査報告第 40 集 1997 年

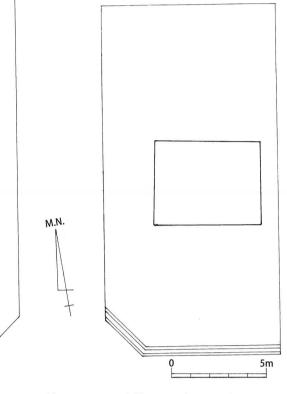
第Ⅲ章 桜塚古墳群第 11 次調査

1. 調査の経緯

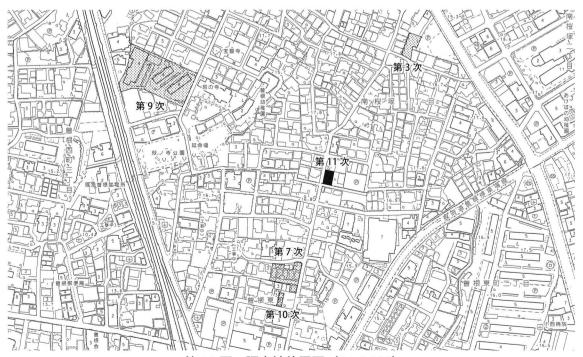
当調査区は、豊中市南桜塚1丁目222-4の一部に所在する。平成22年11月4日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成22年11月18日に確認調査を実施したところ、地表面において埴輪砕片を採集した。さらに申請地内を精査したところ、地表下数cmのところで基盤層を確認し、その上面において古墳周溝とみられる遺構を確認した。

申請地では個人住宅の新築が予定されているが、現行の計画では基礎掘削工事により遺構の破壊は免れないことが判明したため、事業主ならびに代理者と協議を行った結果、遺構が検出された範囲を対象として本発掘調査を実施することになった。

本発掘調査は平成 22 年 11 月 26 日 (金) から平成 22 年 12 月 3 日 (金) にかけて実施し、調査面積は $22m^2$ とした。

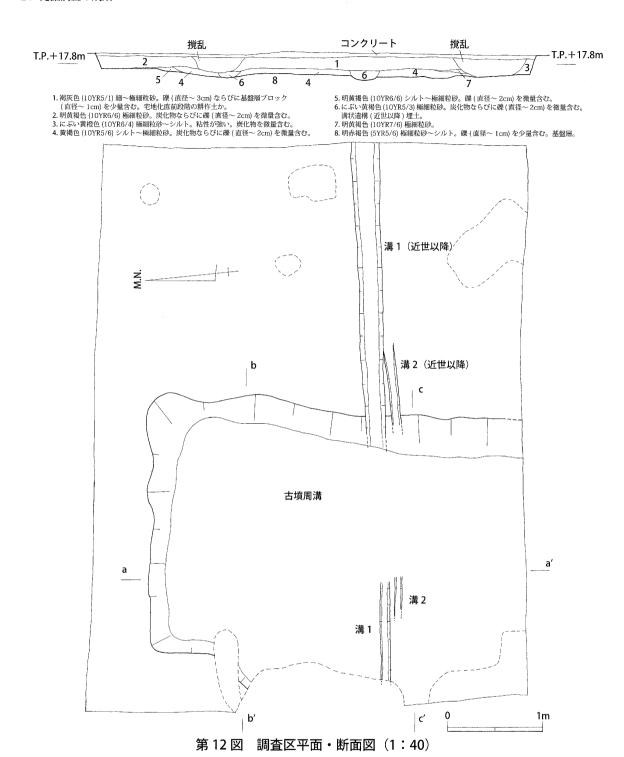


第 10 図 調査範囲図 (1:200)



第 11 図 調査地位置図 (1:5,000)

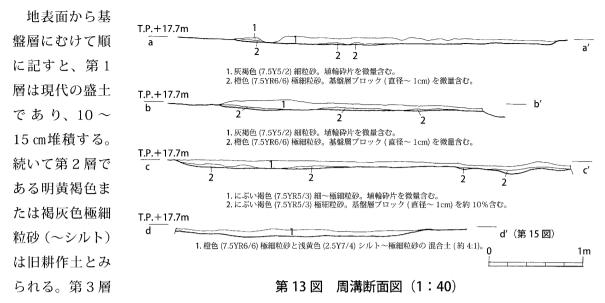
2. 発掘調査の成果



2. 調査の概要

(1)基本層序

当調査区は確認調査時の所見によれば、地表面がほぼ基盤層上面に相当し、基本層序は残存しないとみられていた。ところが申請地内に削平を免れた部分がわずかに存在することが判明し、 土層を観察したところ、以下の4層に区分可能であった。



は黄褐色シルトと第4層(基盤層)の混合土である。黄褐色シルトは 今回無遺物であったが遺物包含層の可能性がある。最後に第4層の橙 色シルトは非常に堅く締まった土層であり、当調査区における基盤層 でもある。古墳周溝とみられる遺構は第4層上面において検出してい る。

(2) 検出した遺構

当調査区第4層(基盤層)上面からは溝状遺構2条、古墳周溝を 検出したが、溝状遺構については調査の結果、近世以降に掘削された ことが判明したため、その報告を割愛する。

5 cm

第14図 出土遺物(1:2)

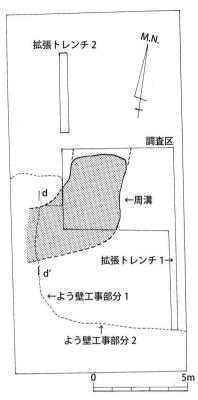
古墳周溝 調査区西半部で検出した浅い落ち込み状の遺構である

が、埴輪砕片が出土することから古墳周溝と判断した。但し、従前の構築物等による削平が顕著 であったため、墳丘部分はすでに消滅しており周溝の残存状況は非常に悪く、深度は深いところ でも約6㎝である。したがって、今回は周溝基底面付近のみがかろうじて残存したものと考えら れる。周溝の断面は基底面に向かってゆるやかに下がっていき、同中央部はほぼ平坦な基底面を 形成する。周溝は一見すると南北方向の掘削にみえるが、調査区西壁付近を注視すると周溝の向 きが南西方向に変わって調査区外へ伸びていく部分がみられるなど、今回の限られた調査範囲で 周溝の規模ならびに周溝に伴って造られた墳丘の形態と規模を特定することは困難であった。

埋土は堅く締まった褐灰色砂質シルト層の単一層である。埴輪は周溝東半分において出土した が、これも残存状況は悪く、表面が摩滅したものが大半であった。

(3) 出土遺物

第14図1は申請地内における採集資料であるが、古墳周溝から近接した位置での採集であり、 周溝出土の埴輪と形態的な特徴が類似するため、本来当該周溝に帰属する可能性が非常に高いと 判断される。しかも残存状況が良好であるため出土遺物として掲載することにした。残存長 4 cm



第 15 図 周溝想定図 (1:200)

をはかり、断面台形のタガを有する。外面はタガ付近に 横方向ならびに斜め方向のハケ目がかろうじて観察でき る。横方向のハケ目の種類は不明である。

2は周溝内出土の埴輪砕片であり、1と同様に外面に 断面台形のタガを有する。外面には横方向のハケ目がみ とめられる。横方向のハケ目の種類は不明である。

1・2 はタガの形態などから川西宏幸氏による円筒埴輪編年IV期に該当し、古墳時代中期後葉につくられた埴輪とみられる。したがって古墳の築造時期も同様の時期と考えられる。

3. まとめ

今回の調査で新規の古墳周溝が確認されたことにより、 桜塚古墳群内に5世紀後半頃築造とみられる古墳が1基 追加されることになった。とはいえ、残存状況は決して 良好でなく、今回の調査範囲から当該古墳の詳細なデー タを抽出することは困難であった。それでも調査成果か ら想定されうる周溝の形態について考察し、今後の隣接

地一帯における発掘調査の一助にしたい。

今回の申請地では地表面と基盤層上面がほぼ同じレベルであった。このことが幸いし、臨時に調査区外に拡張トレンチを設け、周溝の広がり具合を観察することができた。その結果を示した図が第 15 図であり、2 本の拡張トレンチ、ならびに基盤層断面が露出し断面観察が容易であった 擁壁工事部分(2 か所)の計 4 か所をもって周溝の有無を確かめた。古墳周溝が認められたのは 擁壁工事部分 1 のみであり、他の 3 か所では認められなかった。上述の観察結果を考慮しつつ想定される古墳周溝は、スクリーントーン部分にみられる範囲ということになる。今回の調査ではかつてここに所在した古墳の南東部分が確認され、すでに消滅している墳丘部分は西側の南北道路上に位置すると考えられる。ただし、古墳周溝や墳丘の規模、円墳あるいは方墳など墳形の区別は明らかにできなかった。それでも、出土埴輪から大まかな時期が推定でき、何よりも従来全く知見がなかった古墳が発見され、このことが特に桜塚古墳群南群の動態解明に向けて一歩前進したことが大きな成果であったと考える。

第IV章 確認調査の成果

昨年度1月から3月および今年度4月から12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、46件を数え、昨年度11件、今年度35件という内訳である。このうち、7件の調査で遺構等が確認されたが、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことや建物基礎部分の設計変更などから、本格的な発掘調査を行うには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第 16 図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

第1表 平成22年(2010年)確認調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査原因	面積(㎡)	遺構等の有無	調査後の処置	担当者	備考
1	本町遺跡	本町4丁目 126-5	20100114	個人住宅建設	62.59	有	慎重工事	陣内	基礎浅
2	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 245-5 の一部	20100114	個人住宅建設	49.68	無	着工	陣内	
3	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 245-3	20100114	個人住宅建設	57.22	無	着工	陣内	
4	桜井谷窯跡群	宮山町2丁目34	20100121	個人住宅建設	74.53	無	着工	陣内	
5	本町遺跡	本町2丁目143-7	20100128	個人住宅建設	55.57	無	着工	陣内	
6	桜塚古墳群	曾根東町1丁目90-2	20100128	個人住宅建設	55.48	無	着工	陣内	
7	山ノ上遺跡	宝山町 35-10	20100225	個人住宅建設	43.06	無	着工.	橘田	
8	桜塚古墳群	南桜塚3丁目102	20100225	個人住宅兼店舗建設	110.19	無	着工	橘田	
9	本町遺跡	本町 4 丁目 69-3,70-3	20100311	個人住宅建設	40.13	有	再立会後、着工	橘田	設計変更
10	桜塚古墳群	岡町南1丁目91,91-1	20100331	個人住宅建設	125.07	無	着工	陣内	
11	山ノ上遺跡	山ノ上町 97,97-1,97-2	20100331	個人住宅建設	55.73	有	慎重工事	陣内	基礎浅
12	庄内遺跡	庄内幸町 4丁目 65-13 の一部	20100415	個人住宅建設	55.76	無	着工	陣内	
13	桜塚古墳群	南桜塚1丁目245-1	20100428	個人住宅建設	53.37	無	着工	橘田	
14	桜塚古墳群	南桜塚 1 丁目 245-9	20100513	個人住宅建設	59.6	無	着工	陣内	
15	桜塚古墳群	南桜塚1丁目245-7	20100513	個人住宅建設	60.0	無	着工	陣内	
16	太鼓塚古墳群	永楽荘 3 丁目 29-2	20100527	個人住宅建設	74.05	未確認	着工	橘田	盛土内
17	山ノ上遺跡	宝山町 60	20100527	個人住宅建設	51.03	無	着工	陣内	
18	庄内遺跡	庄内西町 4丁目 59-1 の一部	20100603	個人住宅建設	41.68	無	着工	陣内	
19	穂積遺跡	服部豊町1丁目 198-17 の一部	20100610	個人住宅建設	60.35	無	着工	陣内	
20	桜塚古墳群	南桜塚1丁目 132 の一部	20100610	個人住宅建設	59.13	無	着工	陣内	
21	桜井谷窯跡群	桜の町6丁目 55 の一部	20100617	個人住宅建設	90.30	未確認	着工	陣内	盛土内
22	桜塚古墳群・岡町遺跡	岡町 13	20100617	個人住宅建設	70.52	無	着工	陣内	
23	桜塚古墳群	南桜塚1丁目245-11	20100624	個人住宅建設	56.31	有	慎重工事	橘田	設計変更
24	穂積遺跡	服部元町1丁目112-10	20100702	個人住宅建設	47.20	有	着工	橘田	江戸時代後期以降
25	利倉南遺跡	利倉3丁目113-4	20100708	個人住宅建設	101.38	無	着工	陣内	
26	野畑春日町古墳群	春日町 3 丁目 9-2	20100708	個人住宅建設	56.03	無	着工	陣内	
27	桜井谷窯跡群	東豊中町1丁目60-48	20100715	個人住宅建設	75.35	無	着工	橘田	
28	桜塚古墳群	南桜塚1丁目146の一部	20100722	個人住宅建設	75.75	無	着工	橘田	
29	桜塚古墳群	南桜塚1丁目 146 の一部	20100722	個人住宅建設	50.61	無	着工	橘田	
30	下原窯跡群	中桜塚5丁目167-1,167-17,167-19	20100916	個人住宅建設	27.77	無	着工	陣内	
31	穂積遺跡	服部西町3丁目1435-1	20100930	個人住宅建設	76.40	無	着工	陣内	
32	桜塚古墳群	曾根東町1丁目2-1	20100930	個人住宅建設	43.59	無	着工	陣内	
33	上津島遺跡	上津島2丁目216の一部ほか	20101014	個人住宅·倉庫建設	152.17	無	着工	陣内	
34	上津島遺跡	上津島2丁目135-26,135-47	20101014	個人住宅建設	73.68	有	再立会後、慎重工事	陣内	
35	桜塚古墳群	曾根東町1丁目2-2	20101021	個人住宅建設	59.89	無	着工	陣内	
36	桜塚古墳群	南桜塚1丁目37-4	20101021	個人住宅建設	71.53	無	着工	陣内	
37	太鼓塚古墳群	永楽荘2丁目292の一部	20101028	個人住宅建設	60.86	無	着工	陣内	
38	野畑春日町古墳群	春日町 4 丁目 78-32	20101028	個人住宅建設	61.30	無	着工	陣内	
39	下原窯跡群	南桜塚 4 丁目 103-1	20101104	個人住宅建設	53.23	無	着工	陣内	
40	新免遺跡	玉井町1丁目129	20101104	個人住宅建設	99.50	無	着工	陣内	
41	桜塚古墳群	曽根東町1丁目2-4	20101111	個人住宅建設	39.26	無	着工	陣内	
42	新免遺跡	玉井町 3 丁目 28,28-2	20101118	個人住宅建設	68.37	有	再立会後、慎重工事	陣内	基礎浅
43	桜塚古墳群	南桜塚2丁目76-2	20101125	個人住宅建設	57.22	無	着工	陣内	
44	小曽根遺跡	浜1丁目330-12	20101202	個人住宅建設	53.95	無	着工	陣内	
45	新免遺跡	玉井町3丁目74-2	20101209	個人住宅建設	62.52	無	着工	陣内	
46	秋原土接飛 ・図町42集成	岡町北3丁目109・110の各一部	20101216	個人住宅建設	43.24	無	着工	陣内	



第 16 図 確認調査地点位置図

2010 - 01 本町遺跡

調査日:平成 22 年(2010年) 1月14日

調査場所: 豊中市本町4丁目126-5

調査対象面積: 62.59 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

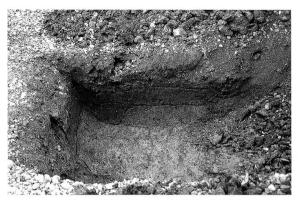
し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 42 cmにおいて基盤層を検

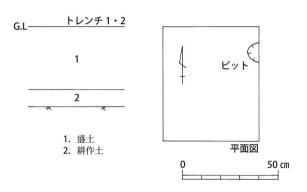
出し、遺構(ピット1基)を確認した。

調査後の処置:建物に伴う基礎掘削は盛土内に

収まるため、慎重工事を指示。



第17図 トレンチ掘削状況



第18図 トレンチ平面・断面図

2010 - 02 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)1月14日

調查場所:豊中市南桜塚1丁目

245 - 5 の一部

調査対象面積: 49.68 m

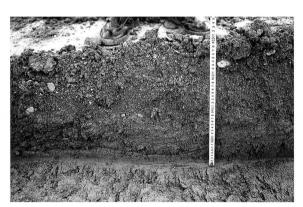
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

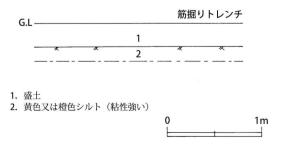
調査の概要:地表下25cmにおいて基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第19図 トレンチ掘削状況



第20図 トレンチ断面図

2010 - 03 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)1月14日

調査場所: 豊中市南桜塚1丁目245-3

調査対象面積: 57.22 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

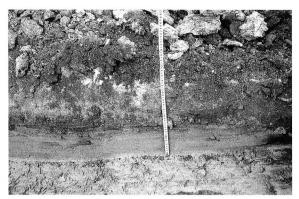
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要: 地表下 20 cmにおいて基盤層を検

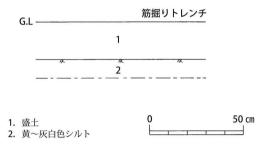
出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第21図 トレンチ掘削状況



第22図 トレンチ断面図

2010 - 04 桜井谷窯跡群

調査日: 平成 22 年(2010年) 1月 21日

調査場所:豊中市宮山町2丁目34

調査対象面積: 74.53 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

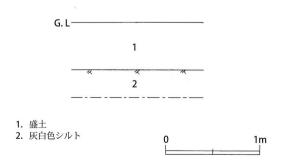
調査の概要:地表下50cmにおいて基盤層を検

出したが、窯跡に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第23図 トレンチ掘削状況



第24図 トレンチ断面図

2010-05 本町遺跡

調査日:平成22年(2010年)1月28日

調査場所:豊中市本町2丁目143-7

調查対象面積:55.57 m²

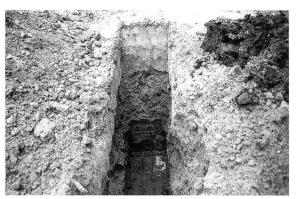
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

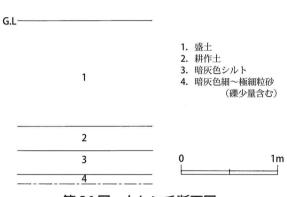
調査の概要:掘削深度(地表下 170 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第25図 トレンチ掘削状況



第 26 図 トレンチ断面図

2010 - 06 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)1月28日

調査場所:豊中市曽根東町1丁目90-2

調査対象面積: 55.48 m²

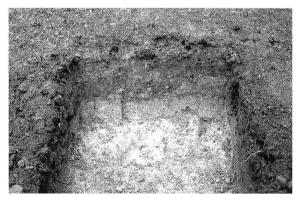
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

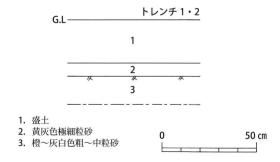
調査の概要: 地表下 30~35 cm において基盤

層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物

等は確認されなかった。



第27図 トレンチ掘削状況



第28図 トレンチ断面図

2010 - 07 山ノ上遺跡

調査日:平成22年(2010年)2月25日

調査場所:豊中市宝山町 35 - 10

調査対象面積: 43.06 m

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:既設建物の基礎により旧地形は著

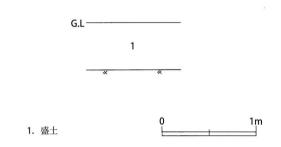
しく削平されており、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第29図 トレンチ掘削状況



第30図 トレンチ断面図

2010 - 08 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)2月25日

調査場所: 豊中市南桜塚3丁目102

調査対象面積: 110.19 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ2か所

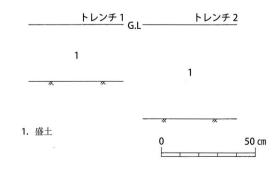
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要: 既設建物の基礎により旧地形は著しく削平されており、遺構・遺物等は確認さ

れなかった。



第31図 トレンチ掘削状況



第32図 トレンチ断面図

2010 - 09 本町遺跡

調査日:平成22年(2010年)3月11日

調査場所: 豊中市本町4丁目69-3、70-3

調査対象面積: 40.13 m

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

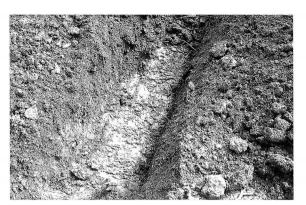
し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下50cmにおいて基盤層を検

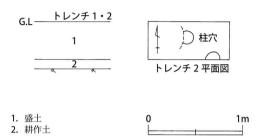
出し、その上面で柱穴2基を確認した。

調査後の処置:設計変更により遺構の損壊は免

れることから、再立会後に着工を指示。



第33図 トレンチ掘削状況



第34図 トレンチ平面・断面図

2010 - 10 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)3月31日

調査場所:豊中市岡町南1丁目91、91-1

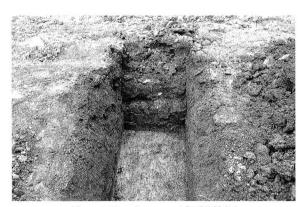
調査対象面積: 125.07 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

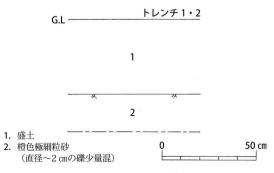
し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下60cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。



第35図 トレンチ掘削状況



第36図 トレンチ断面図

2010 - 11 山ノ上遺跡

調査日:平成22年(2010年)3月31日

調査場所:豊中市山ノ上町 97、97 - 1,2

調査対象面積: 55.73 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

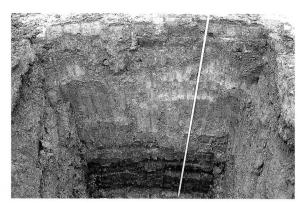
調査の概要: 地表下 140 cmにおいて弥生土器の

包含層を、地表下 165 cmにおいて基盤層を検

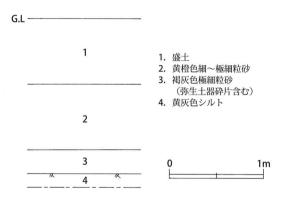
出したが、遺構は確認されなかった。

調査後の処置:基礎は盛土内に収まることから、

着工を指示。



第37図 トレンチ掘削状況



第38図 トレンチ断面図

2010 - 12 庄内遺跡

調査日:平成22年(2010年)4月15日

調查場所: 豊中市庄内幸町4丁目

65-13の一部

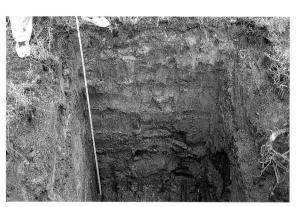
調査対象面積: 55.76 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下 200 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。



第39図 トレンチ掘削状況

G.L		
	1	1. 盛土 2. 灰色極細粒砂 (しまり弱・軟弱) 3. 灰白色中〜細粒砂 (軟弱)
	2	
	3	0 1m

第40図 トレンチ断面図

2010 - 13 桜塚古墳群

調査日:平成 22 年(2010 年) 4月 28 日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目245-1

調査対象面積: 53.37 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

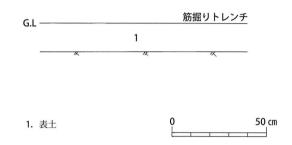
調査の概要:掘削深度(地表下 15 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第 41 図 トレンチ掘削状況



第42図 トレンチ断面図

2010 - 14 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)5月13日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目245-9

調査対象面積:59.6 ㎡

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

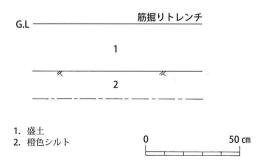
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 25 cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。



第 43 図 トレンチ掘削状況



第44図 トレンチ断面図

2010 - 15 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)5月13日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目245-7

調査対象面積:60 ㎡

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要: 地表下 25 ~ 35 cm において基盤

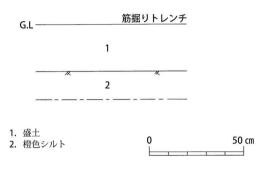
層を検出したが、遺構・遺物等は確認されな

かった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第 45 図 トレンチ掘削状況



第46図 トレンチ断面図

2010 - 16 太鼓塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)5月27日

調査場所: 豊中市永楽荘3丁目29-2

調査対象面積: 74.05 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下130 cmまで盛土であること

を確認した。

調査後の処置:ボーリングデータにより地表下

500 cmまで盛土であることが判明しており、

基礎が盛土内に収まることから、着工を指示。



第47図 トレンチ掘削状況

第48図 トレンチ断面図

2010 - 17 山ノ上遺跡

調査日:平成22年(2010年)5月27日

調査場所:豊中市宝山町60

調査対象面積: 51.03 m

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

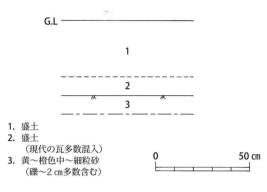
調査の概要:地表下 40 cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第49図 トレンチ掘削状況



第50図 トレンチ断面図

2010 - 18 庄内遺跡

調査日:平成22年(2010年)6月3日

調查場所: 豊中市庄内西町4丁目

59-1の一部

調査対象面積: 41.68 m

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下 165 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。



第51図 トレンチ掘削状況

G.L	1 1
1	1. 盛土 2. 耕作土 3. 灰白色極細粒砂~シルト
2	(粘性強い) 4. 灰白色極細粒砂
3	(粘性強い) 5. 灰色シルト
4	6. 灰色細粒砂(しまり弱)
5	
6	0 1m

第52図 トレンチ断面図

2010 - 19 穂積遺跡

調査日:平成22年(2010年)6月10日

調查場所:豊中市服部豊町1丁目

198 - 17 の一部

調查対象面積: 60.35 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

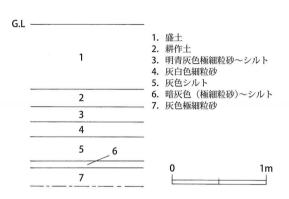
調査の概要:掘削深度(地表下 215 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第53図 トレンチ掘削状況



第54図 トレンチ断面図

2010 - 20 桜塚古墳群

調査日:平成 22 年(2010 年) 6月 10 日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目132の一部

調查対象面積: 59.13 m

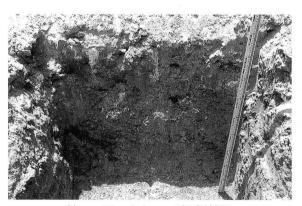
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

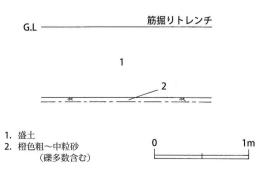
調査の概要:地表下75 cmにおいて基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第55図 トレンチ掘削状況



第56図 トレンチ断面図

2010 - 21 桜井谷窯跡群

調査日: 平成 22 年 (2010年) 6月17日

調査場所:豊中市桜の町6丁目55の一部

調査対象面積:90.3 ㎡

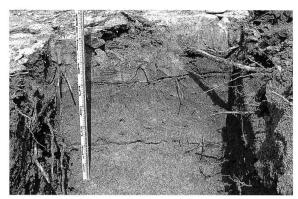
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

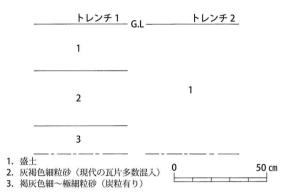
調査の概要:掘削深度(地表下70 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第57図 トレンチ掘削状況



第58図 トレンチ断面図

2010 - 22 桜塚古墳群・岡町遺跡

調査日: 平成 22 年(2010年) 6月17日

調査場所: 豊中市岡町 13

調査対象面積: 70.52 m

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下80cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第59図 トレンチ掘削状況

C I	筋掘りトレンチ
G.L	1
	2
	3 4

- 1. 盛土
- 2. 灰黄褐色細粒砂 (基盤層ブロック・礫混入)
- 3. 黄灰色シルト
- 4. 灰白色粗~中粒砂

1m

第60図 トレンチ断面図

2010 - 23 桜塚古墳群

調査日:平成 22 年(2010 年) 6月 24 日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目 245 - 11

調査対象面積: 56.31 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 40~50 cmにおいて基盤

層を検出し、その上面で溝1条を確認した。

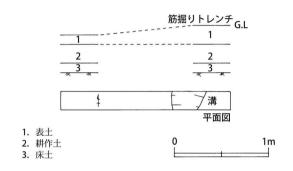
調査後の処置:建物の基礎掘削深度の変更によ

り遺構の損壊は免れることから、慎重工事を

指示。



第61図 トレンチ掘削状況



第62図 トレンチ平面・断面図

2010 - 24 穂積遺跡

調査日:平成22年(2010年)7月2日

調査場所:豊中市服部元町1丁目112-10

調査対象面積: 47.2 ㎡

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 $30\sim 100$ cmにおいて、遺

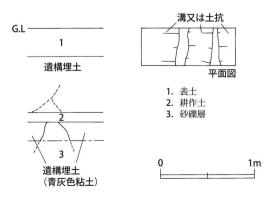
構面を確認した。

調査後の処置:近世以降の遺構であることから、

着工を指示。



第63図 トレンチ掘削状況



第64図 トレンチ平面・断面図

2010 - 25 利倉南遺跡

調査日:平成22年(2010年)7月8日

調査場所:豊中市利倉3丁目113-4

調査対象面積: 101.38 m

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

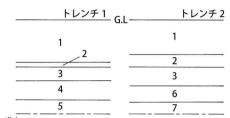
調査の概要:掘削深度(地表下 200 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第65図 トレンチ掘削状況



- 2. 耕作土 3. 黄灰色シルト
- 4. 明青灰色極細粒砂〜シルト 5. 灰色シルト 6. 明青灰色極細粒砂

- 7. 褐灰〜灰色シルト



第66図 トレンチ断面図

2010 - 26 野畑春日町古墳群

調査日:平成22年(2010年)7月8日

調査場所: 豊中市春日町3丁目9-2

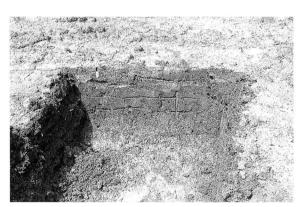
調査対象面積: 56.03 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 47 cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。



第67図 トレンチ掘削状況

G.L	トレンチ 1	. 2
G.L	1	
	2	
	3	
	4	7
	5 *	_

- 1. 盛土
- 2. 盛土
- 3. 灰色細~極細粒砂
- 4. 灰褐色細粒砂
- 5. 橙色中~細粒砂



トレンチ断面図 第 68 図

2010 - 27 桜井谷窯跡群

調査日:平成 22 年(2010年)7月15日

調査場所: 豊中市東豊中町1丁目60-48

調査対象面積: 75.35 m

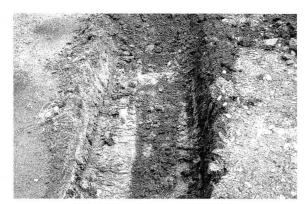
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

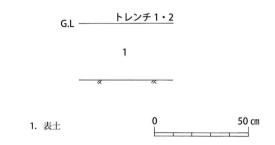
調査の概要:掘削深度(地表下30㎝)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第69図 トレンチ掘削状況



第70図 トレンチ断面図

2010 - 28 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)7月22日

調査場所: 豊中市南桜塚1丁目146の一部

調査対象面積: 75.75 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

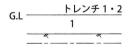
調査の概要:掘削深度(地表下15㎝)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第71図 トレンチ掘削状況



1. 表土 0 50 cm

第72図 トレンチ断面図

2010 - 29 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)7月22日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目146の一部

調査対象面積:50.61 ㎡

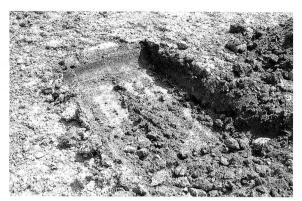
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

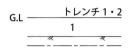
調査の概要:掘削深度(地表下 15 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第73図 トレンチ掘削状況



1. 表土



第74図 トレンチ断面図

2010 - 30 下原窯跡群

調査日:平成22年(2010年)9月16日

調査場所: 豊中市中桜塚 5丁目 167 - 1,17,19

調査対象面積: 27.77 m²

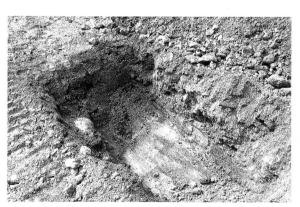
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

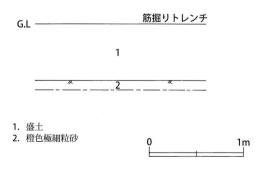
調査の概要:地表下60~65 cmにおいて基盤

層を検出したが、窯跡に関連する遺構・遺物

等は確認されなかった。



第75図 トレンチ掘削状況



第76図 トレンチ断面図

2010 - 31 穂積遺跡

調査日:平成22年(2010年)9月30日

調査場所:豊中市服部西町3丁目1435-1

調査対象面積:76.4 ㎡

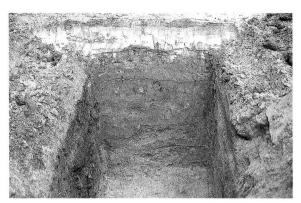
調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

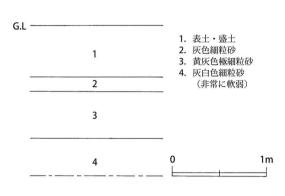
調査の概要:掘削深度(地表下 160 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第77図 トレンチ掘削状況



第78図 トレンチ断面図

2010 - 32 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)9月30日

調査場所:豊中市曽根東町1丁目2-1

調査対象面積: 43.59 ㎡

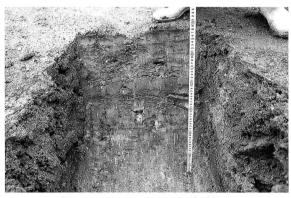
調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

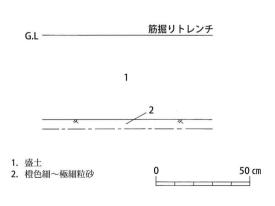
調査の概要:地表下 45 cmにおいて基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第79図 トレンチ掘削状況



第80図 トレンチ断面図

2010 - 33 上津島遺跡

調査日:平成 22 年(2010 年)10 月 14 日

調査場所:豊中市上津島2丁目216の一部他

調査対象面積: 152.17 m²

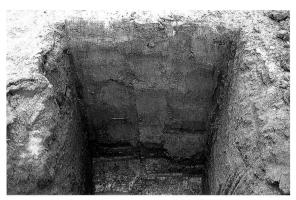
調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

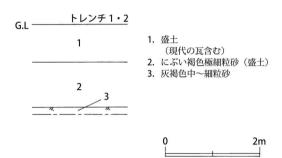
調査の概要:掘削深度(地表下 195 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第81図 トレンチ掘削状況



第82図 トレンチ断面図

2010 - 34 上津島遺跡

調査日:平成22年(2010年)10月14日

調査場所: 豊中市上津島2丁目135-26,47

調查対象面積: 73.68 m

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

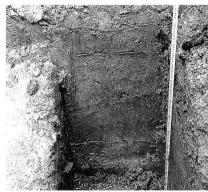
し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 115~180 cm において遺

物包含層を検出したが、明確な遺構は確認さ

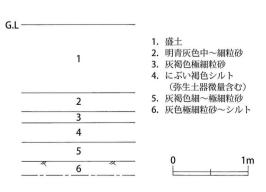
れなかった。

調査後の処置:再立会後、慎重工事を指示。





第83図 トレンチ掘削状況



第84図 トレンチ断面図

2010 - 35 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)10月21日

調査場所: 豊中市曽根東町1丁目2-2

調査対象面積: 59.89 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

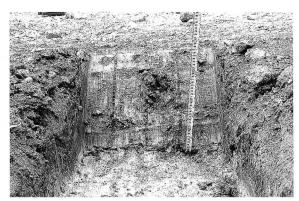
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 20 cmにおいて基盤層を検

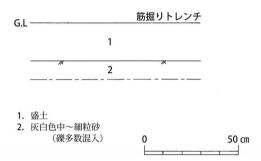
出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第85図 トレンチ掘削状況



第86図 トレンチ断面図

2010 - 36 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)10月21日

調査場所:豊中市南桜塚1丁目37-4

調査対象面積: 71.53 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

を掘削し、トレンチ内を精査した。

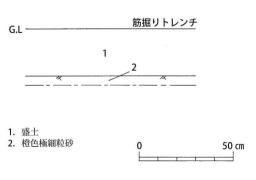
調査の概要: 地表下 25 cm において基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第87図 トレンチ掘削状況



第88図 トレンチ断面図

2010 - 37 太鼓塚古墳群

調査日:平成 22 年(2010年) 10 月 28 日 調査場所: 豊中市永楽荘 2 丁目 292 の一部

調査対象面積: 60.86 m

調査の方法:重機によりトレンチ 1 か所を掘削

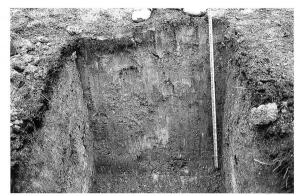
しトレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下90cmにおいて基盤層を検

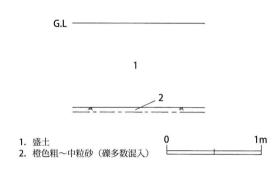
出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第89図 トレンチ掘削状況



第90図 トレンチ断面図

2010 - 38 野畑春日町古墳群

調査日:平成 22 年(2010 年)10 月 28 日

調査場所:豊中市春日町 4 丁目 78 - 32

調査対象面積:61.3 ㎡

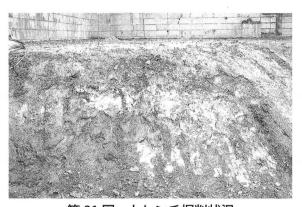
調査の方法:重機によりトレンチ 1 か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

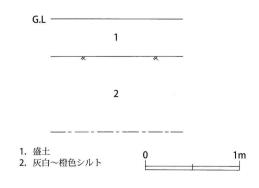
調査の概要:地表下 40 cmにおいて基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。



第91図 トレンチ掘削状況



第92図 トレンチ断面図

2010 - 39 下原窯跡群

調査日:平成22年(2010年)11月4日

調査場所:豊中市南桜塚4丁目103-1

調査対象面積: 53.23 m²

調査の方法:重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下 210 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第93図 トレンチ掘削状況

G.L

1

2
3
4

1. 盛土
2. 灰色シルト
3. 青灰色極細粒砂 (~シルト) 0 2m
4. 青灰色細~極細粒砂

第94図 トレンチ断面図

2010 - 40 新免遺跡

調査日:平成22年(2010年)11月4日

調査場所:豊中市玉井町1丁目129

調査対象面積:99.5 m

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

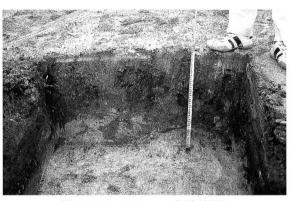
し、トレンチ内を精査した。

調査の概要: 地表下 40~50 cm において基盤

層を検出したが、遺構・遺物等は確認されな

かった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第95図 トレンチ掘削状況

G.L トレンチ 1・2

1

2

1. 盛土 0 50 cm
2. 灰白色極細粒砂

第96図 トレンチ断面図

2010 - 41 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)11月11日

調查場所:豊中市曽根東町1丁目2-4

調査対象面積: 39.26 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

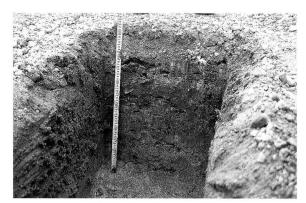
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 50 cmにおいて基盤層を検

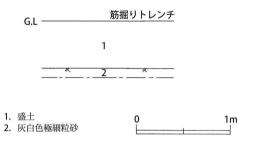
出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第97図 トレンチ掘削状況



第98図 トレンチ断面図

2010 - 42 新免遺跡

調査日:平成22年(2010年)11月18日

調查場所: 豊中市玉井町3丁目28、28-2

調査対象面積: 68.37 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:トレンチ2において地表下53cm

で残存が良好な遺物包含層を、地表下 85 cm

で基盤層と明確な遺構を確認した。

調査後の処置:基礎掘削深度は盛土内に収まる ことから、再立会後、慎重工事を指示。



第99図 トレンチ掘削状況



第 100 図 トレンチ平面・断面図

2010 - 43 桜塚古墳群

調査日:平成22年(2010年)11月25日

調査場所:豊中市南桜塚2丁目76-2

調査対象面積: 57.22 m²

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

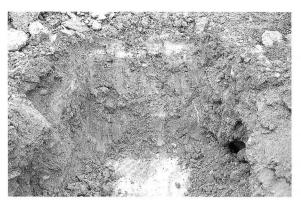
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要: 地表下 55 cmにおいて基盤層を検

出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確

認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第 101 図 トレンチ掘削状況

G.L ______筋掘りトレンチ

第 102 図 トレンチ断面図

2010 - 44 小曽根遺跡

調査日:平成22年(2010年)12月2日

調査場所: 豊中市浜1丁目330-12

調査対象面積: 53.95 m²

調査の方法: 重機によりトレンチ1か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:掘削深度(地表下 180 cm)内にお

いて、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第 103 図 トレンチ掘削状況

 1. 盛土

 2. 耕作土

 3. 灰色細粒砂 (非常に軟弱)

 有機物 (枝・葉)少量混

 4. 灰色中〜細粒砂

 (非常に軟弱)

 3

 4

 0

 1m

 0

 1m

第 104 図 トレンチ断面図

2010 - 45 新免遺跡

調査日:平成22年(2010年)12月9日

調査場所: 豊中市玉井町3丁目74-2

調査対象面積: 62.52 m²

調査の方法:重機によりトレンチ2か所を掘削

し、トレンチ内を精査した。

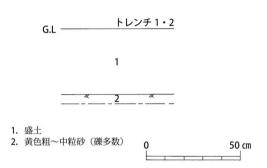
調査の概要:地表下35cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

調査後の処置:確認調査後、着工を指示。



第 105 図 トレンチ掘削状況



第 106 図 トレンチ断面図

調査日:平成22年(2010年)12月16日

調查場所:豊中市岡町北3丁目

109・110 の各一部

調查対象面積: 43.24 m

調査の方法:重機により筋掘りトレンチ1か所

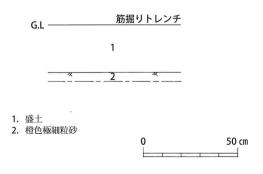
を掘削し、トレンチ内を精査した。

調査の概要:地表下 25 cmにおいて基盤層を検

出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。



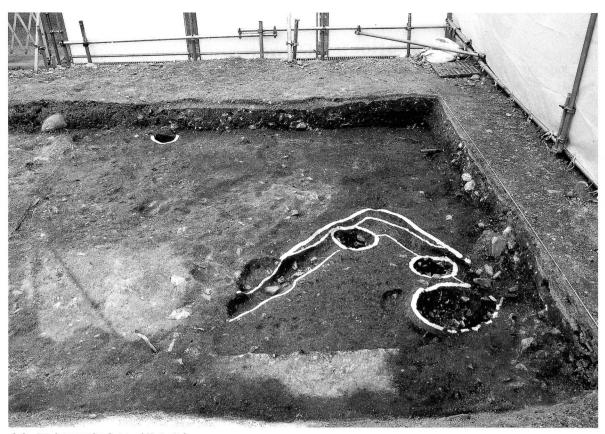
第 107 図 トレンチ掘削状況



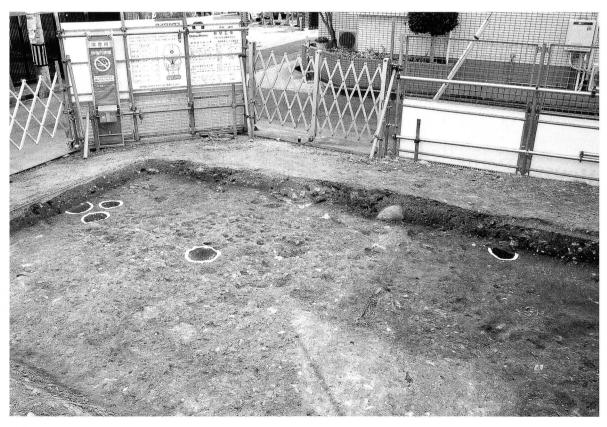
第 108 図 トレンチ断面図

写 真 図 版

図版 1 新免遺跡第 63 次調査



(1) 調査区西部全景(北から)



(2) 調査区東部全景(北西から)



(1) 調査区北部全景(北東から)



(2) 竪穴住居1断面(南から)

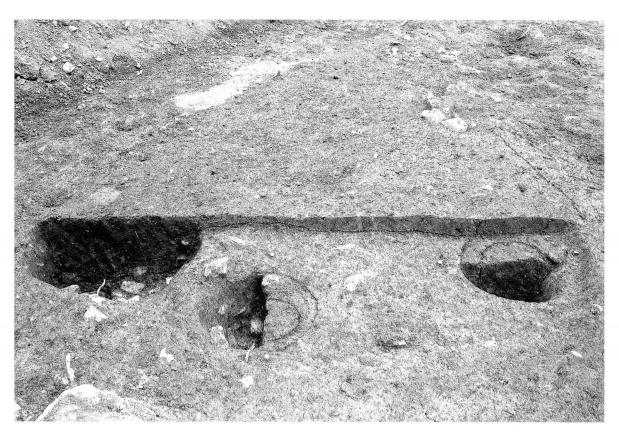
図版 3 新免遺跡第 63 次調査



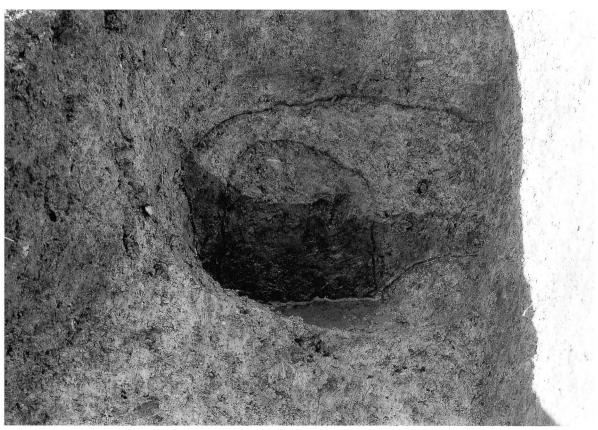
(1) 竪穴住居 2 壁溝検出状況(北東から)



(2) 竪穴住居 2 全景(北東から)

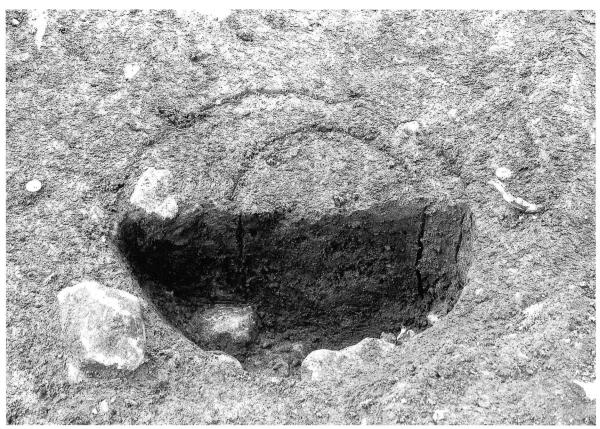


(1) 竪穴住居 2 断面(南西から)

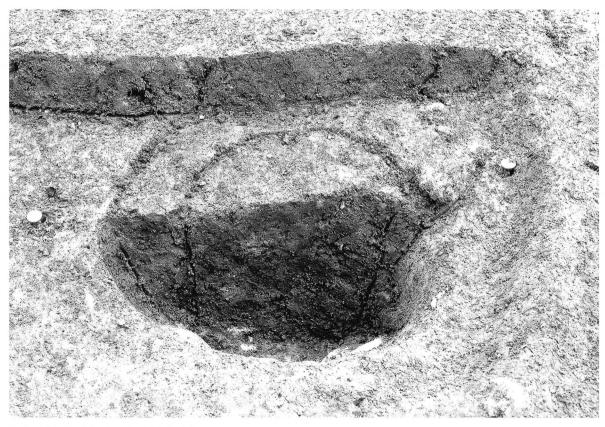


(2) ピット5 (竪穴住居1床面)

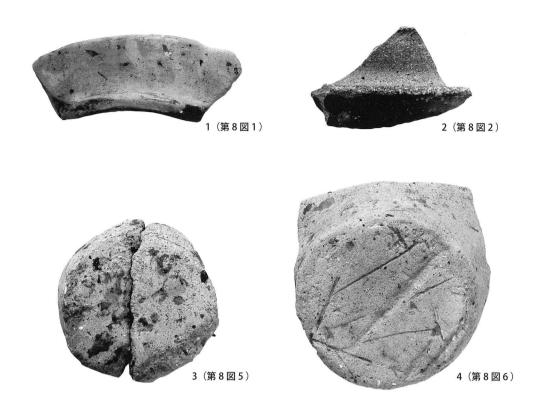
図版 5 新免遺跡第 63 次調査



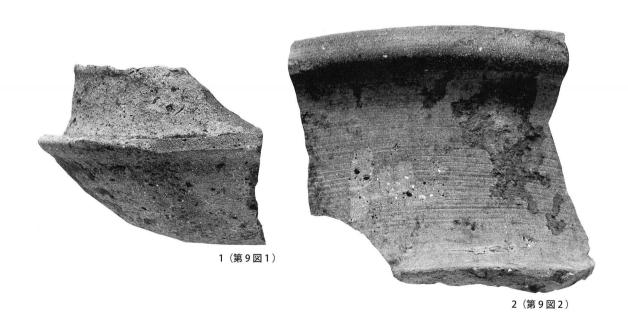
(1) ピット 12 (竪穴住居 2 内)



(2) ピット 11 (竪穴住居 2 内)

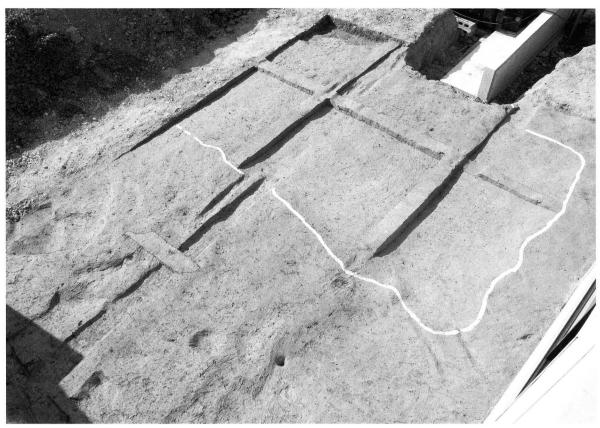


(1) 遺構出土遺物(1:土坑1、2:竪穴住居1上層、3・4:竪穴住居1下層)

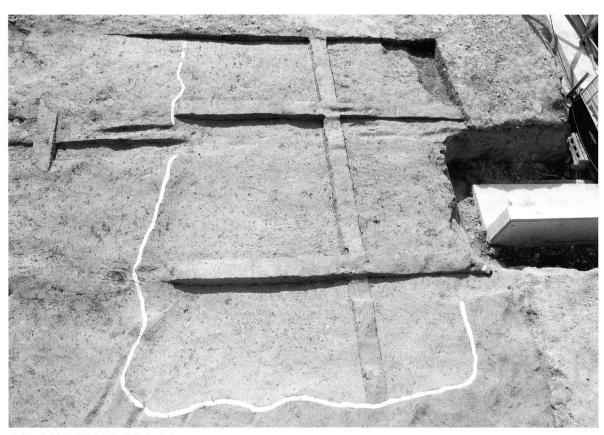


(2) その他出土遺物 (重機掘削後精査時)

図版 7 桜塚古墳群第 11 次調査



(1) 調査区全景(北東から)



(2) 古墳周溝全景(北から)



(1) 古墳周溝断面(南西から)



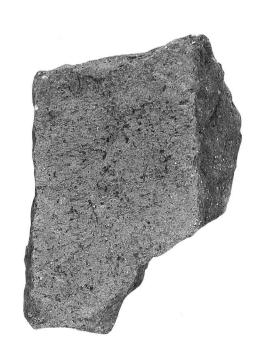
(2) 調査区基本層序(東壁面)





(1) 周溝出土埴輪(左:外面、右:内面)





(2) 採集埴輪(左:外面、右:内面)

報告書抄録

ふりがな	とよなかし まいぞうぶんかざい はっくつちょうさ がいよう					
書 名	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成 22 年度(2010 年度)					
シリーズ名	豊中市文化財調査報告					
シリーズ番号	第 64 集					
編 著 者	陣内高志・浅田尚子					
編集機関	豊中市教育委員会(市町村コード 27208)					
所 在 地	〒 561 — 8501 大阪府豊中市中桜塚 3 丁目 1 — 1 TEL06 — 6858 — 2581					
発行年月日	月日 平成23年(2011年)3月31日					
所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
新免遺跡 第 63 次	董拼前2丁目 213-3	34° 47′ 07″	135° 27′ 36″	20091130 ~ 20091225	66 m	個人住宅建築
被壕舌墳群 第11次	南桜塚1丁目 222 - 4 の一部	34° 46′ 14″	135° 28′ 20″	20101126 ~ 20101203	22 m ²	個人住宅建築

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新免遺跡 第 63 次	集落跡・古墳	弥生・古墳	竪穴住居	弥生土器 土師器・須恵器	弥生後期、古墳後期の 集落関連遺構を検出。
桜塚古墳群 第 11 次	古墳	古墳	古墳周溝	埴輪	古墳周溝を検出。

豊中市文化財報告 第 64 集 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 22 年度(2010 年度)

発行:豊中市教育委員会

豊中市中桜塚3丁目1-1

平成23年(2011年)3月31日

印刷:(株)きたがわぷりんと

